

## 中国人の日本語文章における中国語の影響

中野 洋、張 建華、林 翠芳†

国立国語研究所 京都教育大学†

### 1. 目的

中野は計算機による日本語表現の変換実験について研究を進めている。これは日本語の変化予測のための実験プログラム、機械翻訳の高度化などにつながると考えている。

本報告では、(1)第2言語としての日本語に第1言語の影響がどこに現れるかを探り、(2)それを計算機によって直すことができるかを考える。

### 2. 作文調査の方法

調査対象は、中野の「中国流行歌の変化」の講演を聞いた後の中国人学生による感想文(800字)である。

被調査者は、北京外国語大学と上海外国語大学の日語系の学生179人、そのうちの25編が今回の調査の対象である。

この調査では、まず日本語教育経験のある中国人と日本人の二人が添削する。それぞれ自分が日本語の神様になったつもりで、より自然な日本語にするように直す。さらに、それを張が整理、分析し、最終的には中野が判断した。添削箇所は3, 269であった。

### 3. 添削の種類

問題は、語構成、品詞、構文、文法的意味、敬語表現、文体、表記、表現等あらゆるところで指摘された。その中には、日本語学習が未熟なために起こる問題と、いくら学習しても直りにくい問題とがある。本報告では、主に後者の例を取り上げる。問題全体の統計分析については機会を改めて報告する。

### 4. 中国語の影響による問題

#### 4.1 共起する語と語の関係

##### (1) 共起する語が異なる場合

1) \*心を深く打たれました。 原文(以下同)

心を強く打たれました。 添削(以下同)

ある動詞をどんな副詞が修飾するかの問題である。日本語では「心を打つ」という感情の程度を表すのに「強く」を用いるが、中国語では、

深深地打動心。(心を深く打たれる)

のように「深深地」を用いる。これが日本語化されたと考えられる。すなわち、中国語では「深深地」と「打動心」が共起するのに、日本語では「強く」と「心を打つ」が共起する。

「深く」なら「打ち込む」など接辞「込む」が付く必要がある。

2)\*日本の流行歌にはあまり関心していませんでした。

(略)あまり関心がありませんでした。

(略)あまり関心を持っていませんでした。

日本語では「関心」は名詞であり、動詞化するには「関心がある」あるいは「関心を持つ」の形にする。これに対し、中国語では「関心(関心する)」と動詞としても用いる。

3)\*歌手同士の競争も強くなってきている。

歌手同士の競争も激しくなっている。

(3)は、「歌手同士の競争」などと中国語の話しことばでは現れ得る表現で、その直訳だと思われる。学習者の注意が必要であり、大量調査結果でも用いない限り話ことばの用法を辞書化するのには難しい。

4)\*流行音楽について何も知らなかったら、

時代におちているような気がします。

(略)時代に遅れているような気がします。

(4)は簡易版の中日辞典の語義記述「落后」から「おちる」を選んだのが原因だと思われる。詳しい意味記述や用例の付加などによって改善できる。

以上、中国語からの干渉による問題、日本語の知識の問題である。ある事柄、事態を表現する場合、どのような語と語が共起するか。これ

は言語によって異なるのは言うまでもない。第2言語学習において母語の表現慣習から抜けられず、母語表現を第2言語の表現にあてはめてしまうことが多い。以上は代表的な例で、我々の中国人による日本語作文調査には多く見られた。

#### (2) 共起語の意味的カテゴリーが異なる場合

日中両語に共通して用いる語彙がある。このような語彙は両語にありながら、互いに同じ意味的カテゴリーを持っていると同時に、それぞれ異なる意味的カテゴリーもある。これについてはすでに指摘されたことだが、この作文調査にも、同様の問題が見られた。

5)\*私の流行歌を聞く歴史は確かその頃から始まったのです。

私の流行歌を聞く習慣は(略)

中国語では、「歴史」は

中国具有五千年歴史。

(中国は5千年の歴史を持っています)

他参加革命的歴史。

(彼の革命にたずさわる歴史)

のように使われているが、日本語では「世界の歴史」「日本の歴史」のように言うが、個人のことは「歴史」という言葉は用いない。

6)\*優秀な流行歌が作られ、

すばらしい流行歌が作られ、

日本語の二つの類義語に意味の分担があるのだが、中国語ではひとつの語でどちらの意味も表せる場合に起こった誤例である。すなわち、日本語では、評価を表す形容詞、形容動詞に「優秀」と「すばらしい」がある。前者は審査などより客観的な評価を経ていなければならないが、後者は主観的な評価(岩波国語辞典では「無条件に」)でよい。このことを知らずに、優秀の流行歌曲(優秀な流行歌)という中国語の表現に引きずられて訳し、誤った表現になった。中国語では「優秀」はどちらの場合にも用いることができるのである。

和語と漢語、和語と外来語には位相的な差が見られる場合があり、これもその例である。

7)\*流行歌は多くの人に歓迎されています。

(略)多くの人に愛されています。

(7)の「歓迎する」という動詞は中国語では「受歡迎」という受け身の形を用いれば、流行歌曲受歡迎。(流行歌が歓迎される) 他的作品受歡迎。(彼の作品が歓迎される) 大学生受歡迎。(大学生が歓迎される)

というように、「歓迎」の対象は、人間だけでなく歌でも作品でもかまわない。しかし、日本語では、「歓迎する/される」対象は、人間または抽象的なことが多く、具体物は少ない(国語研究所の雑誌90種の調査では25例中2例)。

以上は中国語では語の意味の範囲が広く日本語では狭い場合に生じた不自然な表現である。

8)\*人前で大きな音を出して、歌ったことはありません。

人前で大きな声で、歌ったことは(略)

中国語では、生物も無生物も「音」を用いるのに対し、日本語では、無生物の場合は「音」、生物の場合は「声」と使い分けている。

中国語では、ある意味のカテゴリーについて、一つの語を用いてカバーできるのに対して、日本語では、その意味のカテゴリーが細分化され、二つ以上の語を使い分けなければならない。

#### 4.2 指示詞の相違

日本語の指示詞「コソアド」体系は中国語の指示詞の体系と異なるため、作文にも誤った例が多く見られた。

9)\*私の第二の誕生が始まったのはまさにあのころだったのです。

(略)まさにそのころだったのです。

10)\*中国語はそんなに豊富であるのに

中国語はこんなに豊富であるのに、

11)\*あの歌を歌った歌手も有名になりました。

この歌を歌った歌手も有名になりました。

以上の例を見ると、「コ」を用いるべきところに「ソ」「ア」を、「ソ」を用いるべきところに「ア」を用いて間違える傾向がある。しかし、その逆の例は見られない。どのような場合に間違えるのか、例を増やしてもこの傾向が認められるのか、もしそうだとしたら、これは中国語の指示詞とどのようなかわりがあるのか、興味深い問題である。これからさらに調査する

必要がある。計算機で実現するには認知分析が必要となり今後の課題であろう。

#### 4.3 主語の省略しすぎ

主語の省略しすぎも、目立つ問題であった。つまり、主語が省略されるべきではないところで、省略されてしまうという例が多かったのである。

12)\*入学後、心の中で芽生え始めた。

入学後、それが心の中で芽生え始めた。

13)\*あまりにも多いからであろう。

歌の数があまりにも多いからであろう。

14)\*雅楽と庶民音楽に分かれている。

伝統音楽は雅楽と庶民音楽に分かれている。

中国人学習者に見られる主語の省略しすぎは、おそらく日本語教育現場で主語無用を強調すぎたことから起こった現象だろう。確かに、日本語は、英語や中国語に比べて主語の出現頻度が低い。いったいどのような条件で省略でき、どのような条件では省略できないのかということについて、さらに研究すべきである。計算機で実現するには文脈処理が必要となろう。

#### 4.4 主語が人間であるかどうか

作文の中には、次のような日中両語の表現についての習慣の相違によって生じた不自然な例もある。

15)\*この歌は私の心を強く打ちました。

この歌に私は心を強く打たれました。

16)\*最近の流行歌は私を失望させる。

最近の流行歌には失望させられている。

二文とも、日本語では主語は歌より人間の方が自然である。中国語では原文も直された文も両方とも成り立つ。原文の方がよりシンプルな表現で、添削された方は文学的な表現となる。上は日本人による添削だが、中国人は学生も添削者も(15\*)(16\*)のように「歌」「流行歌」を主語とした。このような中国人と日本人の添削の違いからも、日中両語の表現習慣の相違が見られる。ところで、どのような場合にも人間が主語であるほうが良いのか、そうでない場合も

あるのか、それはどのような場合なのかを明らかにしなければ、機械による有効な処理は望めないだろう。

#### 4.5 複文における視点の一致

一つの複文で視点が一致しない問題がある。

17)\*最初のころはただ「小田和正」しか知らなかったが、日本の友達との文通を通じて、いろいろな歌手を紹介してくれた。

(略)いろいろな歌手を知ることができた。

原文は、「日本の友達との文通を通じて」という従属節では、視点は文脈から判断して一人称の「私」にあるが、その後の「いろいろな歌手を紹介してくれた」という主節では第三者に移る。つまり、複文の中に視点が「私」と第三者の二か所にあるのである。しかも、「～を通じて」が独立性の弱い従属節であり実質的に後置詞相当の語句となっているため、なおさら一つの文の中に複数の視点が混在しているという印象を与えやすい。

見方を変えれば、この文の意味は、ある第三者(の中国人)がその日本の友達との文通によって歌手の情報を得、私に紹介したとも解釈できる。これでは、作者の表わしたい意味と違うことになってしまう。従って、この文は、「日本の友達との文通を通じて、いろいろな歌手を知ることができた。」(あるいは「日本の友達との文通を通じて、いろいろな歌手を紹介してもらうことができた」)というように従属節でも主節でも同じ主語に視点を保つようにしたい。そうすれば、より自然な日本語の表現になる。

それに対して、中国語では、両方の文とも成り立つ。不自然であった日本語の文も、それほどおかしくないのである。

通過和日本朋友通信, 他告訴了我許多歌手。

通過和日本朋友通信, 知道了許多歌手。

これはおそらく中国語は日本語より、主語が簡単に付けられるという構文構造になっており、一つの話の流れの中で視点が変わっても、添加された主語によって、話がわかるということであろう。

日本語では、視点が変わる文はわかりにくい。

主語を添加してわからせるよりは、同じ視点で表現の方がよいということになるのだろう。

より自然な文章を作るためには、視点を変化させ表現を変えるプログラムが必要である。

## 5. まとめと今後の課題

中国人学生の日本語作文から日本語らしくない表現を取り出し、これを分析した。この中にはいろいろな問題があるが、特に中国語またはその文化が影響したと思われる問題について検討した。

(1) 共起する語と語の関係 ある語を修飾できる語は限られている。それが言語によって異なる場合が少なくない。日本語教育、言語処理にかかわらず、どのような語と語が共起するかを示す辞書が必要である。

(2) 指示詞の相違 「コ」を用いるべきところに「ソ」「ア」を、「ソ」を用いるべきところに「ア」を用いて間違える傾向がある。

計算機で実現するには認知分析が必要となり今後の課題であろう。

(3) 主語の省略しすぎ 省略できる場合の条件、省略できない場合の条件を明らかにする。

機械では文脈処理が必要である。

(4) 主語が人間であるかどうか 日本語では、どのような場合にも人間が主語であるほうが良いのか、そうでないのかを明らかにする。

機械処理には、主語の判定、および省略された主語を推定することが必要である。その上で、指定にしたがい人間を主語にする文に変える処理が必要である。

(5) 視点の一致 日本語では視点が変わる文はわかりにくい。主語を加えるより同じ視点で表現の方が自然な表現になる。 視点を変化させ表現を変えるプログラムが必要である。

本報告では、問題提起を目的とした。今後、この方法で作文の全サンプルを調査分析し、報告したい。同時に行っている日本人の中国語の調査、日英両語についての分析を通して、問題の一般化も試みたい。

添削。用例は問題になるところだけ原文のまま引用し、それ以外は添削を加えたものを用いる。

## 謝辞

調査については、北京外国語大学日語系朱春躍教授、上海外国語大学日語系皮細庚教授他、お世話になった諸先生、被調査者の学生諸君の協力に対して、感謝の意を表する。また、添削は羅玲玲、中溝朋子、平弥悠紀三氏の協力を得た。本研究は、平成8年度科研費（創成的基礎研究）「国際社会における日本語についての総合的研究」（代表者：水谷修）第3班内「表記・表現に関する実験的研究」、および平成8年度科研費（特別研究員奨励費）「日本語の取り立て助詞とそれに対応する中国語の表現に関する研究－機械翻訳高度化のために－」（中野洋・張建華）による研究成果の一部である。

## 参考文献

- 藤沢伸介(1976)「日本人学生の書いた日本語作文における誤り」(1975年度科研費「日本語文法の機能的分析と日本語教育への応用」(代表者：井上和子)報告書)
- 寺村秀夫(1990)『外国人学習者の日本語誤用例集』(1985年度科研費「日本語の普遍性と個別性に関する理論的及び実証的研究」(代表者：井上和子)報告書)
- 中野洋(1992)「機械翻訳に望む日本語の質」(電子情報通信学会技術研究報告Vol. 92, No. 257)
- John D. Phillips(1992)「Lexical Choice in Machine Translation」(電子情報通信学会技術研究報告Vol. 92, No. 257)
- 橋本利典・島田静雄(1997.1)「外国人の書いた文章の助詞使用誤りの抽出」(情報処理学会自然言語研究会資料)
- 中野洋・張建華・林翠芳(1997)「中国人学生の日本語作文調査」(新プロ「日本語」研究報告集、国立国語研究所)

<注記> \*印は作文に用いられた文、無印は